

MAEBASHI FOCUS

国際交流員 (CIR) ニュースレター

皆さん、ハウディ!

今月、前橋市の姉妹都市であるバーミングハムから来訪者があり、通訳兼翻訳として対応を任せられました。しかも今回のお客様はただの訪問者ではなく、アラバマ州における日本の名誉総領事ご夫妻、そして日本中で有名な詩「青春」を著したサムエル・ウルマンのご子孫という、とても特別な方々でした。

国際交流員 (CIR) として働き始めてから約7か月が経ち、その間に外国からの来訪者と前橋市との間で通訳や接遇を担当する機会を何度もいただきました。その経験のおかげで、今回は以前ほど緊張することはありませんでした。むしろ、通訳やご案内をしている最中はかなり自信を持って対応できたと感じています。

今回の訪問は約2日間にわたり、特に初日が最も忙しい一日でした。午前10時にホテルへお迎えに上がり、そのまま前橋文学館へ向かい、萩原朔太郎の常設展示のガイドツアーに参加しました。以前にも一度経験していたため、今回は比較的落ち着いて対応できました。内容としては、朔太郎の生い立ちや背景の説明に加え、自宅前や「青春」の詩碑での写真撮影などが行われました。



その後、群馬県庁31階にある高級レストランで昼食をとりました。料理も素晴らしかったのですが、大きな窓から見える街の景色が美味しさをさらに引き立てていたように感じました。昼食後はいよいよ当日のメインイベントである「サムエル・ウルマン講演会」へ移動し、講演の通訳と進行のサポートを担当しました。後から知ったのですが、この講演会の様子は地元ニュースでも放送されたそうです!

講演後はいったんホテルへ戻り、短い休憩…のはずが、夜のスピーチ用に準備していた翻訳原稿を挟んだクリップボードを忘れていたことに気づき、実際は“休憩未満”の時間となってしまいました。急いで資料を再印刷し、そのままホテルへ戻ってお客様をお迎えし、最後の予定である夕食会へ向かいました。



サムエル・ウルマン講演会



表敬訪問

夕食会は臨江閣で開催されました。普段であれば登り平に行くこともありますが、今回はより格式の高い会となり、市長をはじめとする来賓の方々も出席されていました。料理はコース形式で提供され、どれも非常に美味でしたが、歴代の通訳者の例にもれず、通訳と食事を同時にこなすのは難しく、ほとんどの料理をゆっくり味わうことはできませんでした。

夕食会は約1時間ほどで終了しましたが、まだ一日は終わりません。そのまま臨江閣の館内案内も行いました。案内は棟梁の方が担当され、専門的な用語も多く出てきましたが、なんとか通訳できたと思います (あくまで「思います」ですが)。

こうして初日は午後9時半ごろにようやく終了しました。長い一日でしたが、翌日も引き続き通訳の業務が待っていました。

最終日は午前10時ごろにお客様をお迎えし、市役所へ移動して市長との面会を行いました。形式ばった会談というよりは和やかな会話のような雰囲気、私としても通訳がしやすかったです。挨拶や記念品の交換を終えた後、記念撮影を行い、その後は高崎駅までお送りしてお別れとなりました。

全体を通して訪問は非常に円滑に進み、名誉総領事ご夫妻およびサムエル・ウルマンのご子孫とお会いし、通訳として関わることができたのは本当に光栄でした。次回のご来訪、あるいは自分自身がバーミングハム市を訪れる機会を楽しみにしています。